

かし、これでは既に出来上っている社会構造に、ただ適応する人間を造ることが教育だということになって、教育は社会にとってただ保守的機能をはたすに止ることになるであろう。ところが、既成の社会秩序にただ適応することだけが、人間の生き方の総てであるはずがない。如何に生きるべきかを教える教育の立場からは、必然的に、社会文化の進歩のために、旧い秩序を改廃し、新しい生活秩序を打ち建てる革新的な働らきが要求される。

そこで教育社会学から、教育社会学にまで自己を現実化しようとする、人格形成のための単なる社会的条件の分析に止まって、精々のところ、社会に適合する人格形成を行うということでは不十分ということになる。したがって、その名に値する教育社会学となるためには、社会に適合する人間を造るために人格の社会化の研究を行うと同時に、それを契機として、社会を変えうる人間を造ること、すなわち、適合しながら変革していきうる人間を造ることを、究極の目的とする学問とならねばならないのである。ここまで突き進まなければ、それは単なる社会学ではありえても、如何に生きるべきかを教える教育社会学ではありえないであろう。教育社会学は、社会の構造や運動法則を明らかにすることによつて、盲目的に社会の現実につつまかる愚かさを避けさせるが、同時にこの理論を指南として、現実をどのように変革していくかの実践指示にまで進まねばならない。つまり、如何に生きるべきかの問題と取り組む意欲と責任をもたねばならないと考える。

現代アメリカにおける教職教育の諸問題

F. P. ハリス

アメリカの教師たちが教職を医師や法律家のような専門職として確立しようと努力してきたことは、アメリカ教育史の重要な面である。ところで現代アメリカにおいては教職教育に対してきびしい批判がなされているので、現代アメリカにおける教職教育の問題点を三つとり上げると共にそれらの解決策について考察してみたいと思う。

現代アメリカにおける教職教育の問題点の第一は、職業教育としての教職教育と伝統的な学問のための専門教育との分裂である。ずっと以前には神学や哲学や文学や語学の教授たちが将来小学校や中学校で教える予定の者たちに教授したのであるが、やがて学芸大学や大学の教育学部が成立すると将来の教師たちを養成することが教育学者の任務になつた。そしてリベラルアーツの学部の学者たちは初等教育や中等教育に関心を示さなくなつたのである。その結果教職教育のコースと伝統的な学問のための専門教育のコースが分裂して、前者のコースだけを履修した者は教えるべきものは知ついても教えるべきものを僅かしかもたないし、後者のコースだけを履修した者は教えるべきものをもっているが教え方を知らないためにそれを伝達することはできないという事態が生じた。

以上述べたような教職教育と専門教育の分裂という現代アメリカにおける教職教育の第一の問題点に対

教育学について：ハリス

する解決策は、教師養成のコースの在り方の変革ということである。即ち、教師になる訓練を受けている者は、法律に定められた最少限の「教育」のコースは厳格に履修しなければならないが、そのほかは専門教育のコースをできるだけ多く履修すべきであるという立場をとることである。要するに、教師養成の学部コースとリベラル アーツの学部コースとの間の極端な相違をなくするようにしなければならない。

現代アメリカにおける教職教育の問題点の第二は、教師が薄給であるという事実が教職教育を受けようとする学生の意欲をくじくことである。他の職業に比して教師の待遇がよくないことが十分に訓練された教師を得ることを困難にしているのである。

第二の問題点についての解決策は、教育に対して一層多くの金をとということである。教師は牧師と同じように西洋におけるあらゆる職業のうち物質的に恵まれるところが最も少かつたということは周知のことである。教師は今日は昔より楽に暮しているが、それでもなおアメリカの多くの地方においては教師の俸給は熟練しない労働者の給料の標準にも達しない。教師の俸給の平均は1945年以来アメリカにおけるあらゆる労働者の平均賃金よりも低い。多くの教師たちは本務以外の仕事の収入乃至は家族の誰かの収入によって生計を補っている。アメリカにおいて教育に費されている金は、1930年代の不景気の期間より今日の方がアメリカの収入の割合からは少いというのが実情である。教師に対して高給を支給することが教師のもつ多くの問題の解決策であり、ひいては教職教育の問題の解決策である。

現代アメリカにおける教職教育の問題点の第三は、教職を専門職として確立するところの職業の専門化の途中に教育がおかれているということである。アメリカにおいては教育は実践的技能の事柄であるとされ、教師は体系的な教育理論をもたずに職人気質をもっている。教職は専門化の方向に向つてはいるが、完全に専門職として育つてはおらないということが、教職教育を受けようとする人びとにとつて教職を魅力のない職業にしてしまうのである。

教職教育の問題点の第三についての解決策は、教師養成の大学乃至は学部を教職以外のあらゆる職業教育のための大学乃至は学部と対等の地位におくことである。医師や法律家の養成と同等の程度において科学的な知識と技術に基いて教師の養成をおこなう工夫をする必要があるのである。（抄訳）

人格性に就て

片岡仁志

教育指導は凡ゆる生活上の諸問題に即して、その問題の解決能力、選択決定の自主的能力を成長せしむるよう協力的援助をする活動であると言われる。従つてその究極の狙いは、問題そのものにあるのではなくて、自己指導力の促進成長にある、即ち自己の中に真の指導的自己を発見せしむることであり、真の自己を自得せしむることである。それは真の自己であると共に万人普遍の人間本性と称し得るものの自覚を意味するものでなければならない。かようなものが、果して存在し得るか、存在するとすれば、それは如